

## 第5回宝塚市幼稚園教育審議会会議 会議録

< 概要 >

開催日時 平成15年12月15日(月)午後1時30分から午後4時  
開催場所 宝塚市役所 2階 2-4・5会議室  
出席者 《委員》出席13人 欠席1人  
《事務局》6人

### 1、開会

会長が開会を宣言。

### 2、議事

#### < 会長 >

議事に先立ちまして、事務局から資料の説明等をお願いします。

#### < 事務局 > 【事前郵送資料と当日配布資料の確認】

#### < 会長 >

それでは、本日の審議に入りたいと思います。

今日の進行につきましては、議事が大きく分けて3点あります。一つ目は、私立幼稚園の意義・役割について。次に財政状況について。三つ目に、幼稚園教育に対しての市の役割についてをご審議いただきます。

それでは、最初の議事ですが、私立幼稚園の意義・役割についてD先生、E先生からお願いします。

#### < D委員 >

まず1番目ですが、宝塚市の私立幼稚園のほとんどの園が学校法人ですが、1園だけ個人立があります。園児数は現在2,740人で、市内全園児の約60%になります。平均すると1園で7学級203人程度になり、1学級平均は29人になります。私立幼稚園では、多くの園児を抱えていると思っている人もいますが、決してそうではありません。

また、少し私立幼稚園に対しての認識が浅いのではないかと思いましたが、それは市の教育委員会や県の教育委員会の管轄下ではなく、知事部局の管轄下に置かれているからです。

次に、経理については財務諸表を作成し、会計士、県、園の監事の監査を受けております。会計士の監査は年に2回受けていますが、3回以上受ける場合もあります。これは園の規模によって違います。会計監査は会計士が行いますが、それ以外に県の監査があります。県の監査では会計のことだけではなく、教育課程や保育内容、設備の基準等もチェックされます。最近は公開条例があり、その条例に伴って各幼稚園の財務内容や教育内容などのほかにも、市民への公開内容や方法などもチェックされています。

次に保育内容ですが、幼稚園の目的、保育内容、入園資格などは、公立幼稚園と何ら変わることはありません。どの園にあっても創立にあたり建学の精神、教育の理念を明らかにして、それを体現していこうと努めているのが私立幼稚園です。その地域に受け入れられるような教育理念をあげて取り組んでいます。園長若しくは理事長は、長年その地域に生まれ育って住んでいる人がたくさんいます。それだけに地域のことをよく理解し、その地域にあった、地域に溶け込んだ教育活動をしており、地域とともに歩んでいます。地域とは、小学校のような校区という概念ではなく、あくまでも生活している範囲だと思っていただきたいと思います。例えばH幼稚園ですと、川西市と隣接していることから、川西市や伊丹市からの園児もたくさんいます。行政区画にとらわれない地域です。本当に子どもが生活している地域です。そのような意味から園児にとっては故郷のような存在でもあります。

二番目に、私立幼稚園のほとんどの園では午後保育を行っております。1週間に5日間も午後保育の日があり、その他にも保護者からの要望に応じて5時からの預かり保育を行っております。ほとんどの園では子育て支援事業を取り入れて、子育て広場を作ったり、子育て相談を受けています。インターネットによる支援も取り組み中です。その様子は「兵私幼協だより」にも紹介されていますが、パソコン操作指導補助員の活動もあり、子育て支援事業研修計画(案)により、子育て支援にも広く取り組んできているのが私立幼稚園であります。決して幼稚園の中だけの教育だけではありません。

三番目には、保育内容が画一的ではなく、それぞれの園が独自に工夫して、保護者の信託に応えようとしています。私立幼稚園は、親が来ないことには、子どもが来ないことには、お客さんが来ないことには潰れてしまいます。それは、目先の親向けのことだけをす

るではなく、本当に子どもを育てなければ、一年目は来ても十年も二十年も続くはずがありません。そこを睨んで、お互いに競争しながら切磋琢磨しているのが私立幼稚園です。

その一例を挙げますと、国の保育要領に準じる中で、幼児の遊び体験、友達との交流など基礎基本の中で、礼儀や規律などを重視している。これはどこの幼稚園でもされていることだと思いますが、日本人は昔から「礼に始まり礼に終わる」と言われます。挨拶が出来るとか、後片づけが出来るとか、脱いだ後の履き物の片づけが出来るとか、一番基礎となることは、どこの幼稚園でもしっかりやっているといます。H幼稚園の例ですが、トイレのスリッパなどが乱れているようなことはありません。それをやらなければ親からすぐに抗議されます。それ以外にも、宗教の教えに基づく人間らしい感性を涵養していくこと。これについてはE先生の幼稚園はキリストの教えによる幼稚園ですので、E先生から詳しいお話があると思います。

次に、専門の講師を入れて今の幼児に合った体育遊び、音楽リズム遊び、英語遊びや日本古来の伝統を伝える茶道などを保育に取り入れている幼稚園もあります。これも目先の親の興味を引くためのものではありません。英語でも9歳までに発音は聞かせたり喋らせたりしなければ身に付かないと言われていています。英語というのは、英語を聞くことが出来て、話すことが出来て始めて英語が出来るというものであって、このような教育を早期に取り入れて何も悪いことではありません。それから園外保育、遠足、見学、体験活動やお泊まり保育などを取り入れて、多種多様な保育に取り組んでいます。

このように競争しながら、良いことを取り入れる。しかも、その先々まで親の信頼を得るようにということに取り組んでいます。保護者の立場からすると、自分の教育方針に従った保育をしている幼稚園を自己責任のもとに自由に選べます。市内市外を問わず、先生の質、幼稚園の規模、設備、保育料、通園距離などを総合的に勘案して園を選ぶことができます。

次に母親学級が開かれています。年間14回以上の講演がもたれていて、子育ての情報や異世代交流などがあり、結構楽しくやっています。前回の審議会での意見の中でも、父親が園行事に参加しないなどの話がありましたが、私立幼稚園ではお父さん方もどんどん入ってくるという園もあります。

次に保育者等では、前回の審議会研修はまるでないような話が出ていましたが、私立幼稚園も県や県幼稚園連盟の主催の研修があります。今日も一つ、日米幼児教育フォーラム開催のお知らせが来ました。日本だけではなく、あらゆるところから来ていただいてフ

オーラムを開催しています。今の保護者の要望は、非常に高いものがあります。このような研修を抜きにしてはやっていけない状況です。そのような危機感を持っています。これから園児数は少なくなっていくと思います。宝塚市は幸いにして今は増えているようですが、これはいつまでも続くものではありません。必ず減ってきます。減ってくることを見通して今から取り組んでいるのです。

宝塚市の私立幼稚園連合会では、各園の研究交流会、これは年に1回、3園が交代で発表し、そのあと意見交換を行うような研修会です。さらに講師を招いての研修会、昨年度は東北大学大学院の先生にお願いしました。教育を広く捉えて考えなければ、これからの対応は出来ないと思います。全国規模で講師の先生を招いて研修会を行っています。園主催の研修ですが、H幼稚園の場合では研究保育を毎年行っています。それから夏期休業中、これは保育者一人あたり4回以上各地の講習会や研修会に出かけていきます。この研修には相当のお金がかかりますが、研修を行って積み上げていかなければ負けるというのが頭にありますからやっています。そしてこの研修は明日からの保育に活かせるようなものもたくさんあります。

それから私学共済の共済組合があります。その共済の事務研修が年に2回あります。県の研修の中には新任教員研修会があります。休暇中の3泊4日若しくは4泊5日研修もあります。

次に、労基法を遵守しています。長時間仕事していたら先生が来ません。園の職員を採るためには就職説明会のようなものを行いますから、そこまで出かけて行って、色んな学校で色んな学生さんと面接して、この子ならうちの園に来てほしいということで、園長が自分の目で見て選んでいる。明るくて元気で幼稚園の子どもに合うような先生ですね。幼稚園の子どもは活動力がありますから大変なものです。ここにおじちゃんおばあちゃんはいらっしゃいませんか。30分も子どもの相手をしていると疲れませんか。幼稚園児20人から30人の相手をしようと思ったら、体力がなかったら大変ですよ。そのような先生を探しに出かけます。来るのを待っているだけではありません。それから園児から見ると、お姉さんみたいな存在で、親しみやすい訳です。

まとめに入りますが、人間らしい価値観、勤勉であるとか、誠実であるとか、正直であるとか、躰、このようなものは、本当に崩壊してきています。価値観の多様化と言いますが多様化ではないですね。既に崩壊しています。家庭教育もバラバラです。そのような中でどうするのかを考えなければならない。それにはやはり親の選択の幅を広げてあげるこ

とが大きな流れだと思います。色んなところで規制緩和の話が出ています。そういったこともこの流れだと思います。ですから民営化も当然として出てくる方向であると思います。今は大学が法人化と言われていますが、そのような流れも必ず幼稚園にも出てきます。また、幼小中高大の一貫教育という話がよく出ていますが、ひとつの理念があって9年間教育するのであれば価値がありますが、それは理念が一緒になって一貫教育をしているのであって、今の宝塚市の小・中・高を見て一貫教育とは思えないですね。

それから、市立に比べて私立の保育料はかなり高くなっています。国からは就園補助費ということで個人の場合は出ています。保護者に一定額の補助が出ています。宝塚市からももっと増額して、私立と市立が同じようになるようにしなければならないと思います。

結論として、民営化という方向にいかねば良くないと思います。全部民営化出来るとは思いますが、全部民営化する場合には条件がたくさんあると思います。色んな条件を付けて民営化ということで、これは出来ないことではないと思います。何も条件なくして民営化ということではありません。以上です。

#### <会長>

ありがとうございました。引き続きましてE先生にお願いします。

#### < E 委員 >

宗教の教えに基づく人間らしい感性を涵養していることについて説明します。

私どもの幼稚園は、宝塚市の幼稚園の中でもキリスト教主義のたった一つの園です。その他にも仏教などを主義として建学の理念としている園があり、そのことについて説明します。

キリスト教主義とは、キリスト教の精神で教育することです。信徒をつくろうとか、布教しようとか、キリスト教で言えば伝道しようとか、そのようなこととは違うということをご理解いただきたいと思います。国の機関などは一定の宗教活動をしてはならないということになっていますが、私立学校法によってキリスト教を主張して、それをもって教育方針としています。

一番根本にあることは、全ての人間が神によって創造された価値ある者とされ、あらゆる人間が神の愛の対象であるという信仰に立って教育をしているということです。ですから、ハンディキャップを持つ子どもも出来る限り受け入れようとしています。私どもの幼

稚園は市内で1番か2番目の100人足らずの少人数の幼稚園ですが、年少組13人のクラスが2クラスの中に1人ずつハンディを持つ子どもがいます。それから年長組22人クラスが2クラスありますが、そこにも1人ハンディを持つ子どもがいます。私立は採算をとることに縛られている訳ではございませんし、効率性ばかりを追い求めている訳ではありません。そういう子ども達を受け入れつつ、神の子だと一人一人丁寧に教育して、ハンディキャップを持つ子どもを精神科医の先生に見ていただいて、いっしょに学びながら、研修に行きながらその子ども達がいわゆる健常と言われる子どもの中で、どのように暮らしていけばよいのかを考えつつ保育しています。私立幼稚園は多種多様ということを認識していただきたいと思います。

そして、どのような取り組みをしているかと言いますと、幼稚園の教育要領を遵守することは言うまでもありませんが、それも含めてキリスト教の思想で覆って進めていくということなのです。それから、色々な道德教育を学校で取り組まれ、私もその教育を受けてきましたが、これは単なる道德教育で、キリスト教主義教育は、「これをしてはいけません。」「こういうことをしましょう。」という徳目主義ではなくて、本当に人々が理解して、こうして神様からいただいている命を使って、よりよい社会をつくっていこうという、誰が見ていても良いことをしていこう、他者のために働いていこうという自律的な人間に育てていこうとしています。

そして最後に、一番大切にしていることは祈ることです。そして色々な喧嘩や争いがたくさんありますが、そのような場面でも理屈で解決することも大切なことでもありますので、私たちが一番大事にしたいことは、「ゆるし」だと思っています。そして色々なことがあっても、他者をゆるす、また他者のために祈って、他者のことを良いようにしてあげる。というような子どもをつくっていきたいと思っています。そして一番最後で書いてありますが、子どもとその両親、家庭、そして同僚の保育者のために祈る保育をするということです。宗教の教えに基づく人間らしい関係を創り出しているということです。

#### < D委員 >

公立と私立の公費負担、保護者負担の格差が出ていますが、幼稚園の運営費で園児一人あたりの金額が出ています。私立幼稚園は約46万円、公立は約75万円。そのうち保護者負担は私立幼稚園は31万2千円、公立幼稚園は7万5千円。随分公費を使っている訳ですが、このことも頭の中に入れておいて下さい。

**<会長>**

それでは、今の説明についてご質問がありましたら、どうぞお願いします。いかがでしょうか。

**<委員>**

まとめの3に書かれています、幼小中高の一貫した教育を公立幼稚園の意義として挙げていた分ですが、このことについて、もう少し詳しくお聞きしたいと思います。

**< E 委員 >**

価値観でもって9年間なり10年間を一貫した教育を行うのであれば値打ちがあります。ひとつの教育理念なり、ひとつの価値観でもって教育していかなければならないと思います。今、宝塚市でも、中学校などでは公立離れが起きていると思います。中山台ではそんな現象が起きています。これは、必ずしも一貫教育が、保護者や地域の人に受け入れてもらえていないと思います。本当にひとつの理念、ひとつの道德観や価値観で通してやるのであれば値打ちがあります。そのような意味です。

**<委員>**

幼小中一貫した心の教育をしています。心の教育では、まず子どもを知ること、  
「幼児理解に始まって幼児理解に終わる」というのが幼稚園教育だと考えるくらい、その子その子の発達が変わりますし、内面理解ということでやっています。そのことが、やはり心の教育を大切にしている部分を、小学校、中学校の先生達が、心の授業はありませんが、そのあたりを大事にしながら、授業をしていくという。そのあたりは幼稚園が滑らかに小学校に接続していけるように、理解しあって、研修していかなければならないと思います。全部の幼小が出来ているとは言えない状態かもしれませんが、それが大事だと言うことで、はじめているところもかなりあります。

**<会長>**

今、中学校の公立離れという話がありましたが、市立小学校は私立幼稚園から就学する子どもがたくさんいると思います。そういう意味では、私立幼稚園も含めての広い意味で、

宝塚市の幼児教育の全体を考える中で、一貫ということを考えていくべきだと思います。

それでは、ここで5分間程度の休憩を挟みます。

## **= 休憩 =**

### **<会長>**

それでは、議題の2に入ります。「厳しい市財政と幼稚園教育」ということで、事務局から説明をお願いします。

### **<事務局>**

昨年10月に「宝塚市の財政構造改革に向けて(緊急宣言)」で、基本方針が発表され、77億7600万円削減しよう発表されました。人件費の削減では、事業の削減、民間委託、民営化の推進を図る中で、職種ごとに徹底した退職不補充や補充抑制を行い、当分の間、定数の削減を図るとされ、保育所及び幼稚園は早期に民営化の検討を行うこととし、その間の幼稚園教諭は退職不補充とし、臨時職員で対応するという方針が出されました。

その後、今年の6月に新たに財政計画が出されました。当初は3年間で77億7600万円を削減しようとしておりましたが、ここ数ヶ月の間に、更に歳入が落ち込んでいくことが予測され、一層厳しい状況となっております。それに伴い、財政構造改革数値目標の見直しについてということで、15年度から17年度までの間で37億400万円の増収削減を行おうとしております。

それを具体化するために、人件費の抑制と事務事業の見直しを進めていかなければならぬとの指針を出しております。補助金の削減の基準を設け、30%を削減します。イベントの廃止、著しく公平性に欠ける事業の廃止、有料化、国基準を超える給付の削減等、180事業の見直しを進めようとしております。これで16億4千万円を削減しようとしております。

### **<会長>**

私から補足的なご説明をさせていただきます。

幼稚園教育財政に関することについてお話をさせていただきます。

まず第一に、公立幼稚園の場合、歳出経費の2割弱程度を保育料でまかなっています。



勿論私立幼稚園も公費が入っていますが、公立では経費の2割程度しか保育料を徴収していません。公立幼稚園の保育料が安くないといけないという議論もあると思いますが、ただ、すべての子どもに対して一律の保育料(歳出の2割程度)がどこまで続くのか、いずれか考えなければならないと思います。それと、平成14年度の人件費が公立幼稚園の場合は約5億円ほどかかっています。これはフルタイムの方の人件費ですから、1人あたり750万円になります。今の民間の給与ベースからすると非常に高いと思います。ここ暫くは給与の上昇が凍結されるということですが、基本的には階段を上がっていきますので、1人あたりの人件費はどんどん上がっていきます。その善し悪しを議論する場ではありませんが、そうした情報も広く市民も知っておく必要があると思います。市の財政が非常に厳しいことをご理解いただきたいのですが、その中で如何にして、宝塚市の教育の質的向上を図っていかなければならないか、一律で削減しようとする、政治的な軋轢が避けられるとは思いますが、そうではなくて、本当に宝塚市の教育が大切だと考えるのであれば、教育予算の削減を他のものといっしょにして考えて良いのかどうかを考えていただきたいをお願いします。宝塚市は、他のものは削るけれど、教育に関してはお金を惜しまないというやり方もあるはずだと思います。勿論、教育や福祉は聖域だから言うものではありません。幼稚園教育について拡充していく必要があると思います。ただし、厳しい状況の中で1人あたり人件費が750万円かかっている、尚かつ非常勤は全部ダメであるということは現実的ではないと思います。管理職の手当をカットしているお話がありましたが、カットすると言っても全部カットすることではないと思います。非常勤であれば指導出来ないということは、民間では通用するのか、お考えいただきたいと思います。指導できないのであれば管理監督職手当を全額返金すべきだと思います。基本的には、行財政改革の中で出てきた幼稚園の民営化はあまり議論されずに、努力目標のように出てきたみたいですが、それは違うと思います。でも、現在でも非効率的なところがあれば、努力により教育効果を下げずに効率化できるのであれば、納税者に対して説明がつかないと思います。これが財政学者からの意見です。

#### < 会長 >

次に「幼稚園教育に対して市の役割」について、事務局からご説明をお願いします。

#### < 事務局 >

公立、私立を問わずに幼児教育を充実していく役割があると思います。今までは、公立幼稚園を設置、運営し、宝塚市の幼児教育の充実を図り、一方では、私立幼稚園への助成や、その保護者への保育料負担を軽減するために就園奨励費の交付を行い、私立幼稚園の充実も進めてきました。

今後、仮に民営化すると考えた場合に、すべての園を民営化できるものではないと考えております。第一に地域的な問題があります。就園対象人口が極めて少ない地域や、近隣に私立幼稚園がないという場合など、地域の方にご心配をおかけすることにもなりますので、最低限として公立が必要となってくると思います。

第二には、教育の質の維持を図るために研修を主催するなど、教育の質を維持向上させる役割もあると思います。

次に、幼稚園や保護者に対しての補助金交付等、財政面の援助も必要と考えております。

このように市の果たすべき役割が挙げられると思います。

#### <会長>

民営化すればというお話がでしたが、財政の立場からコメントしたいと思います。

財政再建の目標は平成19年度に収支均衡です。その平成19年度の収支均衡のために、幼稚園の民営化というプログラムを仮に組み込むとすれば、新たな財政支出が必要になることを考え、さらに民営化したからといって全く既存の私立幼稚園と同じ条件でお願いするかとは考えられないと思います。そうすると、平成19年度の収支均衡の達成という観点から見た場合、幼稚園の民営化はあまり効果はないと感じます。もっと長期的に見た場合には効果は考えられますが、短期的にはどの程度の効果が出るかは疑問です。さらにもっと長期的に見た場合に、少子化が進み、募集しても園児が集まらなくなった場合には、廃園していくという選択肢もあると思います。このように、民営化をした場合、短期的にはあまり効果がないように思います。むしろ、幼稚園経費の中で、あまり教育の質が低下しないようなものを削っていくほうが、財政効果はあると思います。この件は、次にまとめ方についてお話ししますので、次に行きます。

次の幼保一元化について、何かご提案はありますか。

#### <事務局>

幼保一元化については、この審議会の会議でも何度かお話が出ましたが、現時点では具

体的な方策等、何も出ておりません。

#### <会長>

次に今後の取りまとめについて、皆さんにお諮りしたいことがありますので、事務局から資料をお願いします。

#### <委員>

事務事業の見直しの表が配られましたが、12月の議会にも出ており、この伝え方であるとか、内容を議論している最中ですので、既に決定した訳ではありません。様々な請願も出ており、明日の本会議でどのような方向に進むか分かりませんが、予算化される3月議会もありますので、これは案として示されたものだと理解していただきたいと思います。

#### <会長>

それでは、今後のまとめ方について、皆様方にお諮りしたいことがあります。今、事務局からお配りいただいたものは、私の私的ノートでございまして、事務局と事前の打ち合わせをした訳ではございません。

まず第一に前回の会議以降、皆様方から貴重なご意見を頂戴しまして、そのアンケートでは、民営化そのものについては、慎重に考えるべきだとの意見でした。したがって、最終的には、公立幼稚園の意義、役割を慎重に検討した結果、民営化は望ましくないとの結論に至ったという形で答申を出そうと、個人的に考えております。その根拠として、公立幼稚園と私立幼稚園の意義役割を盛り込みたいと思います。

それから、次に民営化後の技術的な問題になりますが、民営化の適切な受け入れ先について、不透明な部分が多いと思います。大学では私学にお金を出してけれども、3年したら潰れてしまうという話があります。そういうことも含めて考えてた場合に、不透明な部分があまりにも大きすぎることがあると思います。

それから、地域に根ざした私立幼稚園が宝塚市には多いということですが、仮に地域に根ざさない経営者、いわゆる大規模園が入ってきた場合に、私立幼稚園同士の協調が図れるかどうかということも考えなければならないと思います。そうなれば既存の私立幼稚園に対しても影響が大きいと考えられます。それから、次に少子化が進行する中で、私立幼稚園の中で廃園するところも出てくることも考えられます。そうした場合に、私立幼稚園

が地域からなくなれば、どこの幼稚園にも入れない子どもが出てくる可能性が考えられます。そういったときの受け入れ先として公立幼稚園が必要であると思います。

以上のようなことから、結論としては民営化は時期尚早となりますが、留保点として、現在の予算配分を前提として歳出削減、効率化をしていくということは必要であると思います。ただし、教育というのは非常に重要な問題でもありますので、これを広く幼稚園にかかる財政を市民に情報提供し、議論してもらう必要があります。教育についてはみなさん関心があると思います。そういう意味で政策の重点化の時期が来ていると思います。

それから、教育を他の行政業務と同じように扱ってもよいのかどうかということです。ただし、厳しい財政状況ということは事実でありますから、その中で公立幼稚園を維持していくことは、市民の広範な理解が必要であります。そのためには、幼稚園を維持していくコストを含む情報の公開が不可欠です。それと同時に、厳しい財政状況の中、市民の血税を投入して幼稚園運営を行っている以上、非効率な部分がなかったかどうかを点検する必要があります。費用と効果を考えたときに、それほどお金がかからない方法があればそれを努力しないと、1人あたり750万円もの人件費を払っておいて、納税者はそれに耐えられないと言っています。その部分の説明責任を果たしていかなければならないでしょうし、もし非効率な部分があれば見直していく必要があると思います。例えば近所に私立幼稚園があつて公立がない場合、私立には保育料が高くて入れないような状況もあると思います。そういう方に対しては、私立幼稚園にも通えるように助成していく必要があると思います。一方で、年収の高い方が公立の幼稚園に行かれるケースもあります。そういう方まで、全体の歳出の2割程度の保育料で良いのかどうか、チェックしなければなりません。それから、割高な人件費については、臨時職員であるから教育が出来ないというのは非常に甘いと思います。

それから、長期的には少子化が進むことが予測される中で、今後定員充足率が低下する園が出てきた場合には、その時にまで続ける必要があるのかどうかは再度検討する必要があります。ここで関係するのは採用のことですが、財政再建が落ち着くまでは、臨時的な措置で対応していただく必要があります。最後は全く私の個人的意見ですが、公立幼稚園の方が先に出来たとお聞きしましたが、私立にそのような要素が無かったので、公立がカバーしたということだと思います。したがって、教育行政は原則的には民間が中心であって、それを補完するものであり、長期的には私立幼稚園を中心に行政がどれだけ補完できるかを基本的に考えていくべきであると、全く個人的な意見です。最後に、今

後は公立幼稚園、私立幼稚園の枠を越え、全ての子どもを対象とした教育に力を入れることが必要であるとして、個人的にはまとめていけばと思いますが、皆さんにもご意見があると思いますので、実質的な議論は次回の場でお願いしたいと思います。

それでは予定された時間を30分を過ぎておりますので、これで終わりたいと思います。次回が実質的には最後の議論となると思いますので、よろしくをお願いします。